1．文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、学会・研究会等での発表・報告・公演等を行うことによって、社会への還元を行っている。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、科学研究費については直接経費の30％が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和7年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として６件が内定している。

(1)継続研究課題

基盤研究(A)補助金

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度　　田邉征夫　32,200千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(B)基金

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について一調査と対策一」

令和3年度～令和7年度　　川本耕三　13,800千円(研究期間直接経費合計額)

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度　　山口繋生　12,700千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(C)基金

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究－工学的解析を用いて－」

令和4年度～令和7年度　　桃井宏和　3,200千円(研究期間直接経費合計額)

「袋中良定開創寺院の総合調査による所蔵資料の研究資源化」

令和5年度～令和7年度　　植村拓哉　2,300千円(研究期間直接経費合計額)

「ユーラシア的視点による古墳時代の服装に関する研究－構造・素材・系譜の検証－」

令和6年度～令和8年度　　木沢直子　3,500千円(研究期間直接経費合計額)

2. 文化財の調査 整理事業

文化財調査修復研究グループ
人文科学担当

総本山長谷寺(桜井市)	総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業
釜口山長岳寺(天理市)	釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る文化財詳細調査

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は令和7年度も継続して実施する。同事業は昭和61年から継続して実施しており、令和7年度で４０年目となる。

令和5年度から着手した釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業も継続して実施する。令和7年度で寺史をまとめた書籍を刊行する予定である。

世界文化遺産登録推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、愛媛県等で継続して行う見込みである。

また、近畿圏内で美術工芸品、歴史資料を中心とした文化財調査事業も予定している。

考古学担当

香川県丸亀市	丸亀城跡大手町地区発掘調査支援業務(発掘調査)
滋賀県野洲市	中畑・古里(ふるさと)遺跡発掘調査整理報告書作成業務(発掘調査・整理報告)
奈良市	平城京跡(左京二条五坊北郊)発掘調査整理報告書作成業務(整理報告)
奈良市	平城京跡(右京一条二坊十一坪)発掘調査整理報告書作成業務(整理報告)
和歌山市	津秦(つわだ)遺跡第19次発掘調査整理報告等支援業務(整理報告)
奈良県宇陀市	不動塚古墳出土遺物整理業務(整理報告)
京都市	泉涌寺開山堂及び開山塔学術調査業務(分析・整理報告)

令和7年度は令和6年度に現地調査を完了した発掘調査2件の整理報告書作成が継続となる。また、和歌山市で行った発掘調査支援業務についても、引き続き整理報告書作成の支援業務を行う。京都市泉涌寺での調査は３年目となり、本年は開山塔下の発掘調査によって確認された蔵骨器の分析調査および学術調査報告書の作成を行う。

上記以外の発掘調査については、滋賀県野洲市にて大規模な開発行為に伴う調査、香川県丸亀市内での発掘調査が発生する見込みである。また、公共事業の増加による影響で、令和7年度も奈良市内を中心に発掘調査が見込まれる。

石造物調査については、令和7年度も人文科学部門と共同で四国遍路札所寺院の調査業務を継続して行う見込みである。

埋蔵文化財保存研究グループ
金属製品・土器担当

堺市博物館(大阪府)	百舌鳥大塚山(もずおおつかやま)古墳基礎整理等業務
宇陀市(奈良県)	不動塚(ふどうづか)1号墳出土品の整理作業等業務

令和2年度から、堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について遺物の種類、数量、状態を把握し今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行ってきた。令和5年度からは、報告に向けての実測・トレース・報告文作成業務を行っており、令和7年度も引き続き同様の業務を行う予定である。

また、令和4年度より出土遺物の保存処理を実施してきた宇陀市不動塚1号墳出土品において、令和7年度より報告に向けた実測・トレース・報告文作成を行う予定である。

保存科学研究室

近つ飛鳥博物館(大阪府河南町)　重要文化財大阪府三ツ塚古墳出土大修羅の保存状態調査
舞鶴引揚記念館(京都府舞鶴市)　白樺日誌保存処理方法の検討

文化財を長く後世に伝えていくには、保存処理後も資料の形状や表面状態などを定期的に調査していくことが重要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには保管・展示環境を調べ、資料が適切な環境下にあるかを調査することも重要である。保存科学研究室ではこれらの調査を行い、資料にとってより良い保管・展示環境を提案している。

近つ飛鳥博物館(大阪府河南町)保管の重要文化財大阪府三ツ塚古墳出土大修羅の保存状態調査では、昭和53年から約15年をかけて保存処理した大修羅について、平成7年から定期的に各部の寸法変化および表面状態を現地調査している。調査の結果、寸法については安定していることが確認できているが、資料表面には滲出による汚損が見られ、定期的なメンテナンスを要す状態である。

舞鶴引揚記念館(京都府舞鶴市)が保管する白樺日誌は第２次世界大戦後のシベリア抑留中に、紙の代わりに白樺の皮をインクの代わりに煙突の煤を用いて作成された日誌である。抑留中の日々の生活を織り込んだ和歌などが書き込まれており、世界記憶遺産に登録されている。これまでの長期間の展示により劣化が進んでおり、保存処理を行う必要が生じている。令和6年度までは、白樺樹皮の基礎物性調査や劣化した白樺日誌を模した疑似的な白樺日誌の作製を行ってきた。令和7年度からは、これまでに得られたデータをもとに具体的な保存処理方法の検討に入る予定である。

奈良市補助金事業仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査(15)

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和7年度も令和6年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝筐印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行う予定である。

調査 研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する予定である。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。分析には、金属などの材質分析に用いる蛍光Ｘ線分析、漆などの有機質の材質分析に用いる赤外分光分析、内部構造を観察するためのX線透過撮影やX線CT、微小部を観察するための各種光学顕微鏡および電子顕微鏡などを用いる。

宗像・沖ノ島関連遺産群の分析

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の構成資産や関連史跡の出土資料のうち、特に金属製品についてX線透過撮影を行い、出土資料の現況を調べるとともに、資料の内部構造についての知見を得る。宗像・沖ノ島関連遺産群には数万点の資料が登録されており、その中には性格の不明な資料も多い。これら資料の網羅的なX線透過撮影を行うことで、その資料群の性格を明らかにすることを目的とする。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

丸亀市	国指定史跡快天山古墳出土石棺蓋の輸送・調査業務
佐野市	重要有形民俗文化財「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」の保存修復
陸前高田市	被災民俗文化財等修理業務
南方熊楠顕彰館	南方熊楠関係資料の保存修復
大阪府河内長野市	引札の修復
奈良市龍象寺	龍象寺（りゅうぞうじ）天井貼付絵画「帯解龍王（おびとけりゅうおう）」の保存修復

現在、丸亀市快天山古墳に埋葬されている舟形石棺の蓋を現地で取り上げ研究所まで輸送し、蓋裏に付着している赤色顔料の分析を行う。縄掛突起根元に亀裂が入り、５分割されており１部材ごと取り上げ輸送する。

昨年度新規に重要有形民俗文化財に指定された「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」資料の内、コシキ(小型溶解炉)１基の保存修復を行う予定である。保存処理終了後は、栃木県博での保管となる。

陸前高田市は、東日本大震災により津波に襲われた旧陸前高田市立博物館に所蔵されていた資料を中心に平成25年から行ってきた保存修理事業が国の被災ミュージアム事業への補助金の交付が最終年度となる。令和７年度では一昨年から続けてきたブリキのおもちゃを中心とした資料の保存修理を行う予定である。

文書絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌法、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。

南方熊楠顕彰館では、書籍の装丁の修復を行う予定である。

河内長野市は、引札(現在の広告チラシ)の修復を行う予定である。

記録資料修復は入札が多い中、当所の独自性を提示し受託に結び付ける努力を継続していく。

龍象寺は、奈良市帯解にある真言宗の寺院で、天井貼付絵画「帯解龍王」は本堂天井に横7m弱、縦4m弱の大きさで描かれた18世紀の天井画である。令和7年度で天井から剥がし、総合文化財センターでの修復を行う予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

福井県立若狭歴史博物館(小浜市)	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
徳島県	重要文化財観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
岩手県平泉町	重要文化財平泉遺跡群出土品保存修理
宮崎県えびの市	島内139号地下式横穴墓出土漆製品の保存処理
福島県三島町	荒屋敷遺跡出土品の保存処理
千葉県柏市	中馬場遺跡出土草摺の保存処理
奈良県奈良市	富雄丸山古墳出土木棺蓋及び身保存処理

重要文化財の修理としては、昨年度に引き続き、福井県若狭町鳥浜貝塚(縄文時代前期)出土品と徳島県観音寺･敷地遺跡(飛鳥～平安)出土品、岩手県平泉町平泉遺跡群(平安時代末期)出土品の保存修理を行なう。

そのほか、宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓(古墳時代)出土矢柄等の脆弱な漆膜、福島県三島町荒屋敷遺跡(縄文時代)出土木製品、千葉県柏市中馬場遺跡(中世)の出土草摺についても昨年に引き続き保存処理を行う。

また新たに、奈良県奈良市富雄丸山古墳(古墳時代)出土木棺蓋及び身の保存処理を行う予定である。

金属製品・土器担当

＜金属製品＞

福岡県宗像大社	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品の保存修理
福岡県行橋市	重要文化財稲童古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館(福山市)	重要文化財草戸千軒町遺跡出上品の保存修理
島根県出雲市	重要文化財上塩冶築山古墳出土品の保存修理

国宝の修理として、沖ノ島祭祀遺跡(古墳時代～平安時代)出土品の保存修理(第4期)を、令和7年度～令和9年度の3か年で行う予定である。

重要文化財の修理としては、令和6年度より引き続き、福岡県稲童古墳群(古墳時代)出

土品の保存修理、広島県草戸千軒町遺跡(鎌倉時代～室町時代)出土品の保存修理、島根根県上塩冶築山古墳出土品(古墳時代)の保存修理を行う予定である。

＜土器＞

茨城県常陸大宮市	重要文化財茨城県泉坂下(いずみさかした)遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財徳島県矢野遺跡出土品の保存修理
大阪府藤井寺市	重要文化財大阪府城山古墳出土水鳥形埴輪の保存修理
島根県出雲市	重要文化財島根県上塩冶築山古墳出土品の保存修理
奈良国立博物館	人面付蓮華文鬼瓦の保存修理

国の指定文化財の修理としては、昨年度に引き続き、重要文化財茨城県泉坂下遺跡(弥生時代中期)出土壺形土器、重要文化財徳島県矢野遺跡(縄文時代後期)出土深鉢形土器、重要文化財大阪府城山古墳(古墳時代)出土水鳥形埴輪、重要文化財島根県上塩冶築山古墳(古墳時代後期)出土子持壺などの保存修理を行う予定である。

そのほかに、奈良国立博物館所蔵の人面付蓮華文鬼瓦などの保存修理を予定している。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展『民俗文化財を後世に －被災資料と「紙の仏」－』(仮)※宗教法人元興寺と共催
開催期間　10月25日(土)～11月16日(日)
開催場所　元興寺法輪館

2024年は、当研究所において民俗文化財(伝世資料)の保存処理・修復を行ってきて50年の節目の年であった。

当研究所では、1974年、「赤穂の製塩用具」を嚆矢(こうし)として民俗文化財の保存処理を開始し、以来、数多くの国指定重要有形民俗文化財の保存処理を担ってきた。その後、対象を拡大し、国宝・重要文化財を含む彩色資料・彫刻・美術工芸品・紙資料・石造品など伝世資料全般に至った。その基礎にあるのは民俗文化財修復で培ってきた、様々な技術である。

本展は、主に修復を行った資料を展示し、その技術と実績を振り返り、広く民俗文化財そのものや保存修復の意義を紹介する。その際、大きく２つのサブテーマを掲げる。

一つは、被災資料の修復を取り上げる。この半世紀には大規模災害として、阪神淡路大震災、東日本大震災などがあった。これらの震災で被災した資料のなかから、研究所で保存修復を行った資料を展示し、被災の実態や、保存修復の内容、そして被災資料を残すことの意義を紹介する。

もう一つは、修復をきっかけに美術史などの諸研究へと展開した事例として、「紙の仏」をとりあげる。元興寺に所蔵される紙製地蔵菩薩立像(おかみさん地蔵)は、当研究所での修復を契機として、珍しい紙製仏像の構造に関する知見が得られ、像内納入品も見いだされたことで、美術史的な研究へと展開した。紙製仏像の類例はそれほど知られておらず、

総合的な考察は緒についたばかりではある。そのため、当展覧会を通して他の事例も含めて検討し、改めてその特質や位置付けを提示することで、関心を喚起するとともに、研究進展の契機となり一助となることを意図したい。

文化講座の開催実践文化財学講座編
「文化財から歴史を読む」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告する。

開催日　9月10日(水)、10月8日(水)、11月12日(水)、12月10日(水)の計4回
(あるいは1月14日(水)を加えた計5回)
場　所　総合文化財センター ルーパ館3階
時　間　13：40〜15：10

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業
文化財企画活用担当

展示支援事業として、昨年度に引き続き「発掘された日本列島2025」の展示支援事業を予定している。また、各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行っており、重要文化財福岡県稲童古墳群出土品(福岡県行橋市)、重要文化財草戸千軒町遺跡出土品(広島県立歴史博物館)、重要文化財湯舟坂二号墳出土品(京都府京丹後市)、重要文化財風返稲荷山(かざかえしいなりやま)古墳出土品(茨城県かすみがうら市)などの保存処理・修復に伴う保存台・保存箱作製を予定している。

なお、これまでも三次元計測を利用した復元・複製品の作製も含め積極的な事業展開を進めており、令和7年度も宮内庁正倉院事務所から委託を受けて正倉院宝物の三次元計測ならびに保存台作製業務を予定している。

また、令和6年度に現地からヘリコプターを用いて取り上げを行った幾坂40号墳(京都府京丹後市)出土漆塗革盾((公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)の保存・強化処理と、京都府千代川遺跡から取り上げた木樋の保管養生作業を予定している。

『発掘された日本列島2025』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和7年も継続して実施を予定しているが、令和7年度より輸送業務と学芸業務に分割されることとなり、学芸業務について入札があり受託が確定した。

業務内容は、本展出陳物の台帳作成、借用・納品の時の資料チェック、展示会場での出陳物の点検 展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、輸送業者や開催予定各館との調整など多岐にわたる。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

報告書、書籍等の刊行

『平城京左京二条五坊北郊発掘調査報告書』

『平城京右京一条二坊十一坪発掘調査報告書』

『元興寺文化財研究所研究報告2025』(1,300冊)の刊行

体験活動・施設見学等

当研究所の研究及び調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターで、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。開催日は文化講座と同じ9月10日(水)、10月8日(水)、11月12日(水)、12月10 日(水)の計4回(あるいは1月14日(水)を加えた計5回)を予定している。

なお、団体見学は、業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れる。